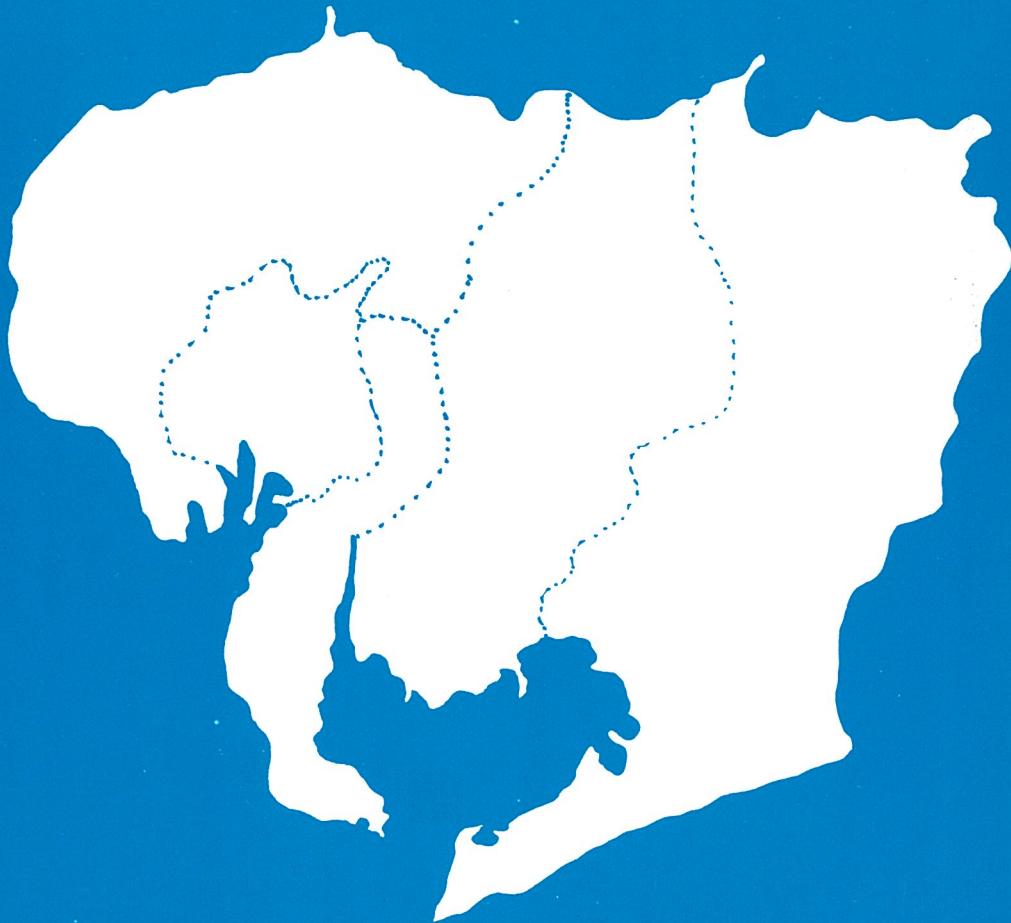


観の眼



連盟結成30周年記念特集号 目 次

巻頭言	2	理事会議事録抜すい	17
連盟結成当時の思い出	3	評議員会議録抜すい	17
剣道連盟年表	4	事業報告抜すい	17
愛知県居合道のあゆみ	13	事業計画抜すい	18
戦後の杖道の変遷と愛知県杖道の現況	14	大会要領及び審査会要領	19
範士八段鹿嶋清孝先生回顧録	15	連盟結成30周年記念事業プログラム	22
剣道試合規則審判則則の解釈について	16	編集後記	32

第5号



愛知県剣道連盟

加藤(文) 本日はご多用中のところ
多数ご参集下さいまして誠にありがとうございました。
当連盟の三十年の記録をたどつて会誌を発刊したい
ということでお集り願つた訳です。
先生方のお話を拝聴致しております
と、当連盟の発足の年月日がどうも
明らかでないような状況ですので、
歴史を明確にしたいと思います。
よろしく御協力の程をお願い致します。
そして今日の座談会につきましては
当連盟の広報委員長である坂田
先生の司会によりましてお話を整理
させていただきながら記録にとどめ
たいと思いますのでよろしくその点
をお含み上御協力を願いしたいと

座談会

昭和五十七年五月一日
於名鉄グランドホテル

坂田
広起

加藤(文) 本日はご多用中のところ
多数ご参集下さいまして誠にありがとうございました。
当連盟の三十年の記録をたどって会誌を発刊したい
ということでお集り願つた訳です。
先生方のお話を拝聴致しております
と、当連盟の発足の年月日がどうも
明らかでないような状況ですので、
歴史を明確にしたいと思います。

のところはそう時間もございませんので、戦後の連盟の発足を何日にしたらしいかというようなことからお話をうけたまります。素人が愛知県の剣道の流れ、戦前戦後のつながり等を知る為の資料というような話は後日にゆずらしていただくというこ

本連盟の結成は、昭和二十七年と聞きおよんでおります。立派な足跡を残された諸先輩の偉業を偲ぶと共に明日への希望にもえて、愛好者の和と青少年の一層の成長を願う次第であります。

本県の剣道は、終戦後占領軍のため武徳会の解散をよぎなくされ、二千年の伝統と誇りをもつ剣道が抹消されようとする運命にあるとき、敗戦により萎縮せる青少年の志氣高揚は、剣道の他にないという決意のもとに故土川元夫、浅井季信、名倉武雄、野々村策一範士や森武生、近藤利雄、横山定雄氏等を中心

に占領軍と折衝、昭和二十三年にアイチジヤパニーズフエンシング協会を結成、全国に先がけ剣道の存続に努められ、その後撓競技連盟を結成し、さらには、昭和二十五年第五回国民体育大

愛知県剣道連盟が、一ここに栄ある連盟結成三十周年を迎えることができましたのは、諸先輩はじめ会員各位の格段のご支援、ご協力の賜と深く感謝し、心から厚くお礼申し上げます。



卷頭言

愛知県剣道連盟

会が当県で開催されるや全日本
対を押し切つて、第一回全日本
府県対抗撓競技連盟を結成し、幾多の反
権大会を名古屋鉄道株の講堂で
開催、昭和二十七年の第七回国
民体育大会から撓競技が正式種
目に加えられた糸口となつたと
記録にあります。

又本連盟を語るとき、今は亡
き前会長土川元夫氏の斯道に対
する情熱とご尽力を忘れるここと
はできません。土川会長は、「剣
道を本格的にやつたのは愛知一
中から金沢の四高に入つてから
です。ともかく“勝つ”ことだ
けを念じて修業しました。“勝
つ”とはどういうことか、先輩
やその道の達人に聞いたりした
んですが、だんだんわかってきてき

卷　　愛知県剣道連盟　　頭　　言

会長 竹田弘太郎

めの苦闘、それが六十数年の生涯をふりかえってみて一番ベースになつております。一生を通じて何が参考になつたかと云うとその時の苦しみ、苦闘だったということですね」と『私の履歴書』の中で人生のすべてが剣道だったと語つておられます。

本連盟の今日があるのも故土川会長のリーダー・シップのお

ここに謹しんでご冥福をお祈りいたします。

「温故知新」來し方を振り返り、歴史の鏡に己が姿を写し、自省しながら現在抱える諸問題を再考し、眞の人間性を希求するなかで、会員一人一人が剣道を通じて自らを正し、地域との連帶を図りつつ新しい世代を引き継ぐ子供達を育んでいくべきでありましょう。

この広報「観の眼」が三〇周年の特集号になり、この発刊によつて、本連盟が今日まで伸展してきた立派な道程や、その時時の先輩の努力や労苦が明らかになります。そしてこの連盟ができるのは現代に生きる我々にとって、何よりも喜ばしいことだと思います。そしてこの連盟が一層充実し、連盟と会員の皆さんのが一層発展されることをお祈りしてございさつといたしません。

愛知県創立三十周年記念事業は、六月二十七日に計画いたしておりますが、それに先だち五月一日名鉄グランドホテルに諸先輩にお集りいただき連盟結成当時の思い出話、先達の四方山話等をお伺いし後輩に伝承いたすことになりました。

連盟結成当時の思い出

お頼みいたしましてメンバリーは、

森田 茂	横山定雄	範士	七段
太田元次	松浦新一郎	教士	七段(欠席)
小川正亮	杉山文藏	教士	七段
佐藤善記	森 武生	教士	七段
鈴木房吉	船橋正一	教士	七段
浅野八郎	加藤文雄	理事長	
近藤利雄	水野八郎	企画委員長	
加藤万寿一	加藤信雄	財務委員長	
神原 正	坂田平七郎	広報委員長	
谷鐸吉郎	細田錚郎	事務局長	
匹田勝夫		(出張中)	(出張中)
範士	八段	(療養中)	(療養中)
範士	八段		
七段			

年表

とで、先ず最初に発足を何日にした
ものかということから御意見をうけ
たまわりたいと思う訳です。浅野先
生どうお考えでしょうか。

- 昭27 ○ 愛知県剣道連盟発足
会長 土川元夫
理事長 森田茂

○名古屋市剣道連盟発足

会長 宮田一雄

理事長 浅野八郎

代表者 名倉武雄

○西三河地区剣道連盟発足

会長 大野佐長

理事長 鈴木房吉

○第七回国民体育大会優勝

昭28 ○ 尾張地区剣道連盟発足

理事長 杉山兼市

代表者 早川清春

○東三河地区剣道連盟発足

会長 竹内京二

理事長 榊原正十人

○第一回全日本選手権大会優勝

昭29 ○ 東三河会長 青木盛

○西三河剣道大会発足

優勝 榊原正十人

(六段)

会長 森田秋男



加藤理事長

谷 それは何年ごろですか。
浅野 二十七年です。

谷 加藤先生の行かれたのは全剣連

の評議員会ですか。

谷 そうです。

谷 その時にはすでに全剣連はあつたのですか。

谷 そうです。会長が木村篤太郎先生でした。銀座の店で評議員会があつたのです。そのころ愛知県では、名鉄と鹿嶋道場、杉山畫心館だけでたがね、連盟が結成される直前でした。

浅野 そうですね。

小川 二十七年に兵庫で全国大会のオブザーバーとして行かれる時に私がついて行きました。昭和二十七年頃だったと思います、龜井良舟といふ教士七段の禪宗の坊さんがおりまして、当時笛島に名鉄道場があり、龜井さん安藤兵一さん等が稽古をしておられました。その時に森田茂副会長が稽古を一ぺんやられたことがあります。自分ではやらんやらんといつてみえるが、の方もやって、そしていいもんだないといつて好きになられたのだと思います。森田さんは、その当時から全国の方達に交友をもち、そして、全剣連の理事や土川さんとの関係がありまして、そういうところへ出入りされたことで、愛知県がいつも何かの時には出ているんです。

小川 昭和二十七年六月七・八日こ

とにちゃんとでています。参加団体

四十府県、参加選手二〇〇名、特別

準指定一五〇名、西宮日芸会館。

細田 大会の正式名称は何というん

ですか。

小川 講和記念全国親善剣道大会で、

この時は金屏風がありまして、そこ

に立派な先生方がずらつと並ばれました。

谷 誰が開催したのですか。

小川 主催は兵庫県阪神剣道協会で

坂田 終戦後よそから一番先きに連絡が来たのは森先生のようですから

森先生そのあたりの事情をお話し下さい。

森 終戦のときに「好ましからざる

運動競技たとえば剣道」こういうこと

で日本から剣道を全面的に取り上げてしまつた。終戦後私が名高商の

谷 そうすると誰のところにその大会案内が届いたのでしょうか。

小川 そうですね。当時一番中心に

なられたのは、森武生先生ですね。市役所の渉外課から森先生のところに連絡がありましてね。剣道防具を持った稽古に集つたり進駐軍のところ

す。

加藤(万) それは愛知の剣道連盟ができていないときですか。

小川 そうです。

谷 そのときに稽古を見せに行つたりしたもん

です。そうしたことなどでずっと事務局

が森先生のところ、今池にあつたのです。



坂田広報委員長

昭26 ○ 第十六回国民体育大会優勝

谷 その時にはすでに全剣連はあつたのですか。

谷 そうですね。会長が木村篤太郎先生でした。銀座の店で評議員会があつたのです。そのころ愛知県では、名鉄と鹿嶋道場、杉山畫心館だけでした。

浅野 そうですね。

小川 二十一年に兵庫で全国大会の

オブザーバーとして行かれる時に私がついて行きました。昭和二十七年頃だつたと思います、龜井良舟といふ教士七段の禪宗の坊さんがおりまして、当時笛島に名鉄道場があり、龜井さん安藤兵一さん等が稽古をしておられました。その時に森田茂副会長が稽古を一ぺんやられたことがあります。自分ではやらんやらんといつてみえるが、の方もやって、そしていいもんだないといつて好きになられたのだと思います。森田さんは、その当時から全国の方達に交友をもち、そして、全剣連の理事や土川さんとの関係がありまして、そういうところへ出入りされたことで、愛知県がいつも何かの時には出ているんです。

小川 昭和二十七年六月七・八日こ

とにちゃんとでています。参加団体

四十府県、参加選手二〇〇名、特別

準指定一五〇名、西宮日芸会館。

細田 大会の正式名称は何というん

ですか。

小川 講和記念全国親善剣道大会で、

この時は金屏風がありまして、そこ

に立派な先生方がずらつと並ばれました。

谷 誰が開催したのですか。

小川 主催は兵庫県阪神剣道協会で

坂田 終戦後よそから一番先きに連

絡が来たのは森先生のようですから

森先生そのあたりの事情をお話し下さい。

森 終戦のときに「好ましからざる

運動競技たとえば剣道」こういうこと

で日本から剣道を全面的に取り上げてしまつた。終戦後私が名高商の

谷 そのときに稽古を見せに行つたりしたもん

です。そうしたことなどでずっと事務局

が森先生のところ、今池にあつたのです。

坂田 終戦後よそから一番先きに連

絡が来たのは森先生のようですから

森先生そのあたりの事情をお話し下さい。

森 終戦のときに「好ましからざる

運動競技たとえば剣道」こういうこと

で日本から剣道を全面的に取り上げてしまつた。終戦後私が名高商の

谷 そのときに稽古を見せに行つたりしたもん

です。そうしたことなどでずっと事務局

が森先生のところ、今池にあつたのです。

坂田 終戦のときに「好ましからざる

運動競技たとえば剣道」こういうこと

で日本から剣道を全面的に取り上げてしまつた。終戦後私が名高商の

谷 そのときに稽古を見せに行つたりしたもん

です。そうしたことなどでずっと事務局

が森先生のところ、今池にあつたのです。



浅野範士

谷 そのときに稽古を見せに行つたりしたもん

です。そうしたことなどでずっと事務局

が森先生のところ、今池にあつたのです。

坂田 終戦のときに「好ましからざる

運動競技たとえば剣道」こういうこと

で日本から剣道を全面的に取り上げてしまつた。終戦後私が名高商の

谷 そのときに稽古を見せに行つたりしたもん

です。そうしたことなどでずっと事務局

が森先生のところ、今池にあつたのです。

坂田 終戦のときに「好ましからざる

運動競技たとえば剣道」こういうこと

で日本から剣道を全面的に取り上げてしまつた。終戦後私が名高商の

谷 そのときに稽古を見せに行つたりしたもん

です。そうしたことなどでずっと事務局

が森先生のところ、今池にあつたのです。

坂田 終戦のときに「好ましからざる

運動競技たとえば剣道」こういうこと

で日本から剣道を全面的に取り上げてしまつた。終戦後私が名高商の

谷 そのときに稽古を見せに行つたりしたもん

です。そうしたことなどでずっと事務局

が森先生のところ、今池にあつたのです。

谷 そのときに稽古を見せに行つたりしたもん

です。そうしたことなどでずっと事務局

が森先生のところ、今池にあつたのです。

坂田 終戦のときに「好ましからざる

運動競技たとえば剣道」こういうこと

で日本から剣道を全面的に取り上げてしまつた。終戦後私が名高商の

谷 そのときに稽古を見せに行つたりしたもん

です。そうしたことなどでずっと事務局

が森先生のところ、今池にあつたのです。

谷範士

谷範士

谷 そのときに稽古を見せに行つたりしたもん

です。そうしたことなどでずっと事務局

○東三河会長北川記言

昭30 ○インターハイ個人 優勝 佐藤国広

○東三河会長小笠原三次

○名古屋市理事長三輪田薰

昭39 ○第十二回都道府県対抗剣道大会優勝

○名古屋市理事長三輪田薰

昭40 ○第十三回全日本都道府県対抗剣道大会優勝

○西三河理事長本庄和夫

○東三河会長大山惣一

昭41 ○東三河会長河合 章

昭42 ○西三河会長内田喜久

理事長稻垣弘一

○東三河会長小川京一

昭43 ○都道府県選抜剣道大会発足

○名古屋市理事長二村忠男

○尾張郡市別対抗大会発足

○東三河会長鈴木房吉

理事長匹田勝夫

○愛知県剣道段別選手権大会発足

○愛知県女子選手権大会発足

○尾張理事長井口時次

○西三河理事長中村安之

○居合道段別選手権大会発足

○尾張理事長井口時次

○西三河県外武者修業発足

○尾張理事長谷鎌吉郎

○野崎義昭優勝

○西三河郡市対抗大会発足

○土川元夫会長逝去

○会長竹田弘太郎

○名古屋市理事長加藤文雄

○五大都市体育大会優勝

○尾張高校冬季大会発足

○尾張名倉 井口範士追悼

○大会

○東三河郡市対抗大会発足

昭50 ○第八回都道府県選抜大会

○名古屋市優勝

○五大都市優勝



第7回国体優勝 S27. 10. 25

昭44 ○春夏少年剣道練成大会発足

○第二回都道府県選抜大会

○世界剣道名古屋大会開催

○第一回世界剣道選手権大会

○愛知県女子選手権大会発足

○尾張理事長井口時次

○西三河理事長中村安之

○居合道段別選手権大会発足

○尾張理事長井口時次

○西三河県外武者修業発足

○尾張理事長谷鎌吉郎

○野崎義昭優勝

○西三河郡市対抗大会発足

○土川元夫会長逝去

○会長竹田弘太郎

○名古屋市理事長加藤文雄

○五大都市体育大会優勝

○尾張高校冬季大会発足

○尾張名倉 井口範士追悼



榎原範士

た名鉄の笛島の道場、それから鹿嶋道場、どこかで稽古をしようと思えば、今池に拳闘の道場があつた。剣道をジャパニースフェンシングと称してやつたのです。これを何とかして全国的に、しかもG H Qの承認を得て堂々とやれるようにするために、笛森順三先生を押し立てて、かつては学生であつたような人や、剣道界で言えりでやつたようない競技連盟を結成した。何もしろいしない競技連盟をやろうと思つたんじやなくて、この日本の伝統的文化が消えてしまわないように、維持していかなければならぬ、その方便として、これでもやろうかという熱

道場、どこかで稽古をしようと思えば、今池に拳闘の道場があつた。剣道をジャパニースフェンシングと称してやつたのです。これを何とかして全国的に、しかもG H Qの承認を得て堂々とやれるようにするために、笛森順三先生を押し立てて、かつては学生であつたような人や、剣道界で言えりでやつたようない競技連盟を結成した。何もしろいしない競技連盟をやろうと思つたんじやなくて、この日本の伝統的文化が消えてしまわないように、維持していかなければならぬ、その方便として、これでもやろうかという熱

く剣道連盟を結成しようというので、剣道連盟の復興に努められたのです。しない競技連盟はだめだだめだ。"剣道連盟"、"剣道連盟"という風潮があつたのは、剣道連盟の本当の真意をわきまえていただけなかつたのです。世の中が次第に治まつて日本が独立したなら剣道を実施しても文句はないでして、剣道をやらなければならぬという風潮が起つたのは二十七年です。愛知県でもそういう全国的な風潮に乗つて、昭和二十七年十一月三日鹿嶋清孝先生のおたくの鹿嶋道場の野試合の日でした。そこでこちらの会合に出てこられない忙しい日であつた。その時にですね。忙しい日であつたのですが、寸暇をさいて羽織袴の紋付の姿で来て、成だからしつかりやつてくれと言われて帰られた。私にとつては記念すべき日であった。その時にですね。会合には出ないけど全国的に俺は贊成だからしつかりやつてくれと言われて帰られた。私にとつては記念すべき日であった。その時にですね。

愛知県の人のみにあらず、東海四県の人に集まつてもうつた訳なのです。東海地区剣道連盟連合会をつくつて、その理事長は加藤七左衛門先生、愛知県剣道連盟理事長足立純三先生の講堂にみんなを集めて、合同会を行つた。愛知県に二つの連盟があることぐらい不幸なことはない、これ新しく剣道連盟の嫡出子が出来たのだから、それじゃ我々も入ろうと言つて入つたんです。そのころ私は既に高等学校でいろいろとやっていました。けれども私達はどちらの会に行つていいのか分らない、どちらへ行けばこちらに義理が立たず、どちらへ行けばこちらに顔が立たず、どう

ちへ行つたらいいのだろうというようない時代であつたのを二十七年の十二月か二十八年かになつて、また名鉄男氏が「愛知県では既に剣道連盟があるじゃないか」と、そう言って下さつただけでも私達は満足していました。そしてとにかくこうやって集まつて新しく剣道連盟の嫡出子が出来たのだから、それじゃ我々も入ろうと言つて入つたんです。そのころ私は既に高等学校でいろいろとやっていました。けれども私達はどちらの会に行つていいのか分らない、どちらへ行けばこちらに義理が立たず、どちらへ行けばこちらに顔が立たず、どう

足立純三先生の名前ばかり出たので、だから残念ながら、東海地区剣道連盟連合会理事長加藤七左衛門先生の名前が当然出ないです。

十一月三日の連盟結成の時の申し合せに剣道連盟を作るけれども全国剣道連盟には入れない、入れば三万円の分担金がいる。その三万円の金の推測ではそれに不満を持った先生方が若干あつたのです。



小川範士



森先生

がないからそれには入るまい。それを聞いた人が、柴田先生の所へ行つて金を払つてくれと、それは嫡出子、十一月三日にできたのは、それは妾子だ、剣道連盟の本流じやないといつたのが亀井良舟先生と鹿嶋先生です。その両先生が連盟もないのにもう柴田先生のところから加盟証明書をもらつてきて、それを錦の旗にして、それを全県下に呼びかけて剣道連盟結成とした。それに私達もこの事長は足立純三先生だから、表面は

がないからそれには入るまい。それを聞いた人が、柴田先生の所へ行つて金を払つてくれと、それは嫡出子、十一月三日にできたのは、それは妾子だ、剣道連盟の本流じやないといつたのが

西田 いま、森さんがおっしゃった
ように愛知県の剣道連盟の結成はい
つか、という問題については、結成
前の動きというものを書いてもらわ
んと、いつから剣道連盟が初まつた
だけでは前が全然わからない。だか
ら前のこととを付け加えて書いていた



船橋先生

だいて、ああそうか、そういうことが
あつて出来たのかと、全日本剣道連盟の十周年の歩みを読んでみても
全日本剣道連盟発足というものが書
いてある。だからこれを付け加えて
もらわないと分らんと思うんですね。
だから森さんがおっしゃったように
私は何か書いてもらうことに賛成。
近藤 何べんか 笹森先生が進駐軍の方へ行かれたのです。そうしたら最後に向うの人が言つたのです。「日本人頭が悪い」といつたそうです。
どういうことかと言うと、「剣道を
いくら私が許したってアメリカ本国
が許さない。本国が許しても極東委員会が許さない。それをいつまでや

つているんだ」「名前をかえてくればいいんじゃないかな」と、はつときずいてそれでしない競技にしたんですね。それで剣道とは若干ムードを変えてやつたんですが、そしてその時に、極東委員会やアメリカよりも、剣道を再び出すには敵は足下にある「体育協会」だった。体育協会がどうしても許さないんだ。そこで松沢一角に逆にやられたのです。この時に体育協会に加盟する基本を作った。だから後で剣道が、そのしない競技の表裏一体の姿で簡単に体育協会の中へ入つて行つた。だから剣道のスタートは、前にみなさんが言つたように何かがそこにあやとして今後の歴史の中に残していくとくということが必要ではないかと思いました。



細田事務局長

難ではございますが出来るだけ拾いまして、その歩みを記録にとどめ、発足の日時はその上の花として、ここで御意見の一致をたまわりますならばありがたい。それで先程匹田先生がお話下さいました書類の中に、土川先生が愛知県剣道連盟会長として、これは二十七年十二月ですが、会長として剣道連盟趣意書というのを出しておられる訳でして、その趣意書の規約の最後に規約は十二月七日から実施するとなつております。大変微妙なところであります。規約は十二月七日から実施するんだが発表された方はもう既に連盟会長として出されている訳なのです。従つて既に愛知県剣道連盟は発足していた訳なのです。日にはどうもこれより前であるがはつきりしないということでございますが、一応規約を実施発足された日付をもつて御同意たまわりますならば、本連盟の発足日と考えさせていただくということです



第13回都道府県大会優勝 S 40. 5. 3

愛知県居合道のあゆみ

愛知には金曰本劍道連盟制定居合

三派が存在します。当県で居合道といえば、第一に剣道範士、居合道範士である剣居一体の人、故鹿嶋清孝先生が晩に浮かびます。先生が昭和六年に柳生流十四代柳生嚴長先生のご指導を受けられ、昭和十一年二月柳生流兵法抜刀術（新陰流居合）目録相伝を受けられました。以来西区稻生町六丁目に精勇館を建設され、剣道及び居合道の指導に当られました。先生の居合道は毎年五月の京都大会で新陰流の神髓を披露され、参加者の衆目を集め絶讚されたものです。先生は特に嚴格で古武士の風格を備えておられたことはご存知の方も多かろうと思ひます。また弟子の指導については先代十四代嚴長先生ゆずりの厳格さで、これに耐えきる者は極くまれであつたとさえいわれています。

教士六段鹿嶋清治、同小林博、同入山善行、鍊士六段松岡良高、他に数名の高弟があると聞き及んでいます。現在も新陰流はこの人々の努力によつて発展の一途を辿つています。

次の無雙直伝英信流について述べれば、そもそも当流は土佐の国に参百余年の伝統を持つており、一番古いと聞いております。その由緒正しいものを昭和四十三年秋頃より、同志數名（現在居合道教士七段池内秀夫、同伊藤宗太郎、同二村忠男、同加藤文雄等）相集い、昭和四十三年に再出版された天之巻を教範として練習を始め、遠く四国・岡山・大阪の地に師を求め、教えを乞い、これを当県に導入したのが始まりであります。当流を奉ずる同志は普及とともに増加し、後に全日本剣道連盟にも居合道を制定する運びになり、講

ます。当流を奉ずる同志は普及とともに増加し、後に全日本剣道連盟にも居合道を制定する運びになり、講習会、伝達反省会等開催の機会を得て、以来年とともに増加の一途を辿り、現在では一〇〇余名に達してまいりました。

現在は前記四名の外、教士七段に

ぎ、愛知県剣道連盟の中にはあつて剣道とともに、居合道をも併せ修めたいと念願されました。居合道普及には第一に指導者を養成しなければならないとの考え方で、遠く東京の当流大家である檀崎先生に懇願し、研究員を派遣し、その効あって豊橋市居合道同好会が結成されました。またこの道の発展を図るために、他流の研究も同時に進められたりしてこの流派の発展の早さは目を見張るものがありました。

間もなく全日本剣道連盟は居合道七本を制定し各県に発表しました。いよいよ時機到来、一気に居合道愛好者の数が各地区ともに増加して来たのであります。

当県剣連にあつてもこのような全日本の傾向に対し黙視できぬような空気が高まり、全日本剣道連盟主催による講習会に参加したり、伝達講習反省会等の機会を作つたりして組

また、全日本剣道連盟主催の大会、講習会、中部日本居合道各々に参加する外、東海四県居合道大会にも毎年参加するようになりました。

愛知県剣道連盟の居合道普及と発展には、古流の中心である三流三派のもとで活躍いただいた存在と、各先生方のご協力あってのことでありますが、高段者も年々増加の途にあるとは申せ、今後居合道振興の為には、当県剣道連盟役員の先生方にも更に一層のご理解とご賛同を賜り、全員のご参加をお願いしたいもので

す。

当県剣道連盟創立三十周年記念を機に、三流三派の居合道の沿革に対し、寄稿をいただき、また全日本剣道連盟制定居合道の発展と普及促進指導にご尽力いたしました先生方

に厚くお礼を申し上げます。

道連盟制定居合道の発展と普及促進
指導にご尽力いたきました先生方
に厚くお礼を申し上げます。

順一その他五段十数名の中堅指導者等が自己研鑽するとともに普及発展に当つております。

また、豊橋市を中心とした東三河地方の居合道発展の道を辿れば、昭和四十三年頃東三河剣道連盟理事長匹田勝夫先生が居合道に情熱をそそぎ、愛知県剣道連盟の中にあつて剣道とともに、居合道をも併せ修めたいと念願されました。居合道普及は第一に指導者を養成しなければならないとの考えで、遠く東京の当流大家である檀崎先生に懇願し、研究員を派遣し、その効あって豊橋市居合道同好会が結成されました。またこの道の発展を図るために、他流の研究も同時に進められたりしてこの流派の発展の早さは目を見張るものがありました。

間もなく全日本剣道連盟は居合道七本を制定し各県に発表しました。

会等を豊橋地区・名古屋地区で年二回実施（三段まで）四、五段は名古屋で年一回、大会は年二回の外、豊橋地区大会、全三河地区東西対抗及び奉納居合道大会、東三河個人団体演武大会等を実施し、日夜精武に努力を重ねて来ております。

また、全日本剣道連盟主催の大会、講習会、中部日本居合道各々に参加する外、東海四県居合道大会にも毎年参加するようになりました。

愛知県剣道連盟の居合道普及と発展には、古流の中心である三流三派のもとで活躍いただいた存在と、各先生方のご協力あつてのことでありますが、高段者も年々増加の途にあります。先生方のご協力あつてのことでは申せ、今後居合道振興の為には、当県剣道連盟役員の先生方にもより一層のご理解とご賛同を賜り、全員のご参加をお願いしたいもので

いよいよ時機到来、一気に居合道愛好者の数が各地区ともに増加して來たのであります。

当県剣連にあつてもこのような全日本の傾向に対し黙視できぬような空気が高まり、全日本剣道連盟主催による講習会に参加したり、伝達講

機に、三流三派の居合道の沿革に対し、寄稿をいただき、また全日本剣道連盟制定居合道の発展と普及促進に厚くお札を申し上げます。

いかがでしようか。

いかがでしようか。
加藤(文) 長時間にわたり貴重なお話をありがとうございました。お話しは、広報「観の眼」で広く会員の皆さんにご報告させていただきます。

- 13 -

戦後の杖道の変遷と 愛知県杖道の現況

愛知県杖道の現況

杖道範士 濱地光一



昭和二十七年に全日本剣道連盟が創立されると共に、杖道もこれに参画したのであります。正式に加入了のは、昭和三十一年と聞いております。しかしながら当時は全剣連としての杖道形と云うものはなく、段位審査等も、それぞれの流派の形で行われていたのであります。

全剣連に於ては、全国的にこの杖

道の普及振興をはかるには是非共、各流派に偏しない、全剣連の杖道形を制定すべきである。との声が高まり、その草案の作成を、杖道研究委員会（委員長、故清水隆次範士ほか委員十四名）に委託、昭和四十三年の二月に草案を完成、同年三月二十九日の評議員会において可決され、この年の十二月の全日本剣道選手権大

会と、その翌年五月の京都武道大会に於て、故清水隆次範士、乙藤市藏範士によつて全国の参加者に対し、これを披露されたのであります。

の冬季には東京日本武道館に於て、又夏季には他府県に於て、それぞれ三日間、全剣連杖道制定形の講習会を開き、それに伴い年一回の全日本杖道大会も開かれ本年はその九回目を迎えるに至つたのであります。

そこで、いよいよ新規規制が制定され、各地方共、杖道人口は女子をも含め急激に増加してきているの

現在はまだ剣道人口に比べればもの数にもなつております。

段者は全国にて五千人を越し、六段以上の方の指導者の数も、百名を上回るほどになつてゐります。

はどになつております
愛知県に於ては、前田治雄先生の
御好意により、一心寺に杖道教室が

開かれたのが、昭和三十二年前後の

10

範十八段
鹿嶼清孝先生回顧錄



剣道範士・八段鹿嶋清孝号一飛舟
(宇宙を飛ぶ意)先生逝かれて八年、

今回「観の眼」に恩師のことを寄稿せよとのご依頼をうけましたが、古いことは悉知しておりますので、

専ら、先生の遺稿ならびに丹念に筆書きされた日誌にもとづき、「ご子息清治君の援けをかりて、この一文を記します。

先生は、明治三十三年四月、現在精勇館のある庄内町で出生、始祖は尾張藩に勤め、神道無念流または長沼流の兵法を極められた家系に育ち、自分も小兵ながら剣の道に志すことを念願し、十六才の頃より愛知武徳会に通いかけ、たまたま水戸から派遣されて来られた田中厚先生に師事し修行されました。田中先生は大兵

ご舎弟の内藤高治先生が、歎き悲し
んでいる鹿嶋先生のさまを見られ、
「兄亡き後は俺が引受ける」と言わ
れ、京都へ出て武徳会の講習生とし
て修行されるようになりました。そ
の当時の武徳会の稽古ははげしくて
有名でしたが、先生はそれで
も満足せず、早晚知恩院の裏山華頂
山に登り旭日を拝して、重い竹刀で
五千回、六千回の素振りを目録とし

田中先生がなくなられました折、兵な対手でも大きいと思わないようになられたと承つております。鹿嶋先生は、この教えを身に沁み心に体して一層鋭気を養ない、同時に体の運用さばきが敏捷になるようとめられ、練習に気合が入ると大銳鋒を避け、飛びついで鶴を捕えるのだ」と、こんこんと諭されたとか。鷹は、「嘴の強いあの大きな鶴のとき、昔の大名の鷹狩りの話をさる」と、特に力が強いことは、幾多の逸話が残されていますが、あれ、「鷹は、嘴の強いあの大きな鶴の

ご舍弟の内藤高治先生が、歎き悲しんでいる鹿鳴先生のさまを見られ、「兄亡き後は俺が引受ける」と言われ、京都へ出て武徳会の講習生として修行されるようになりました。その当時の武徳会の稽古ははげしくて有名でありましたが、先生はそれでも満足せず、早晩知恩院の裏山華頂山に登り旭日を拝して、重い竹刀で五千回、六千回の素振りを日課とし

昭和二年より愛知県熱田中学校教諭、翌年享栄商業学校剣道教師を兼任、その間昭和十一年三月明治神宮体育大会にて、剣道一般壮年専門家試合に優勝の栄冠をかちとられたこともあり、昭和十三年七月に道場を建設して精勇館を受け継がれました。

ここで一言精勇館のことにつれておきたいと思いますが、精勇館は明治十七年山岡鉄舟先生の命名により



昭和49年庄内川野試合にて

水戸表で田中厚先生が社付館長をしておられ、田中先生が愛知武徳会の講師となられた折名古屋へ移し、二代館長は舟橋金恵先生（愛知第五中学校剣道教師）、三代館長が鹿島清孝先生となるわけで、現在ご子息清治氏が受け継いでおられます。

精勇館といえば「野試合」で、鹿鳴先生がこの野試合にかけた執念は見事なものでした。終戦後も、先生は剣道の精神をおいて日本の再建の途はないとの確信のもとに、道場を開いて剣道を続けて来られました。

顧
錄
金
松
國
水

頃と思います。その頃の門人は五指の中に納まってしまうほどで、道場には私一人、掃除だけして帰ることも度々でした。現在稽古日には十二三名の顔を見るようになり、十年以上の方も三、四名おりますが、コシカケ入門者迄を含めれば、その杖道人口はかなり多くなっているものと思われます。一方第一回の名古屋市体育祭の折、その協賛行事として、清水師範が来名され、先生の打太刀にて、テレビ塔の下に於て、名古屋で始めて杖道の公開演武を致しましたところ、たまたまこれを、当時の名古屋電気工業高校の学園長故後藤鉗二先生が観られ、演武後、清水師範の宿に見えて、このような武道、是非私の学園生徒にもやらせたい、組形ばかりと云つても、竹刀剣道と共にこの技を知つたら鬼に金棒となるであろう、精神的に最も勝れた武道であると、大変なおほめをいたしました。これが御縁

の他、豊川に於ては、株式会社熊谷組豊川工場に於てもクラブ活動として、部員は七、八名ですが、十二、三年前から稽古をしています。ここには、四段クラスの人が二名ほど居ります。

このように愛知県としての杖道の歴史は、他府県よりも古いのでありますが、その割にその人口は少く、また全国大会にてもその成績は香ばしくないのであります。この現状を打破するためには、より多くの人々に、この武道を知つてもらうことと、一週間の稽古回数を現在の一回からせめて二回程度に出来る様な稽古場を確保することにあると痛感していります。

今後私といたしましては、この二つのネット解消のために一層の努力を致す所存であります。愛剣連の先生方には、特にこの点の御協力を

となつて、昭和三十六年頃から、名電高のクラブの一つに加えられ、今日に至つております。ここでも以来毎年平均五名くらいの有段者が出ておりましたから、有段者の人口だけで、百名を越しているものと思われます。

事業計画抜き

事業計画抜き

杖道講習会 於愛媛

全国教職員大会 於鳥取

時

名古屋形審査会 於刈谷9

予選(一般)

於県スポーツ会館9時

時

西三河実技審査会 於刈谷9

時

名古屋形審査及び国体

予選(一般)

於県スポーツ会館9時

時

名古屋形講習会(2~5段)

於県スポーツ会館9時

尾張形審査会 於一宮産9

時

国民体育大会 於島根

居合道審査会 於名体10時

居合道審査会(初段)

於県スポーツ会館9時

名古屋形講習会(初段)

於千葉

全日日本東西対抗大会 於千葉

居合道審査会 於名体10時

居合道審査会 於名体10時

剣道五段以上講習会及び称号

審査会 於名体10時

全剣連東海地方講習会

於名体

七段審査会 於福岡

時

名古屋、西三河形審査会

於名体10

愛知県夏季鍊成大会

於名体10時

愛知県居合道大会

於名体10時

愛知県段別選手権大会

於名体10時

全剣連審判形講習会 於東京

於東京

五団体剣道大会

於名体10時

22(日)

<div data-bbox="948 46

2. 会場

名鉄体育館

3. 参加資格

県下の小・中学校在校
(ただし、S58・3卒業生は在校年とみなす)で引率責任者のある団体であること。

4. 参加人員

小学(1団体15名以内)

中学(1団体6名以内)

基本鍊成と試合鍊成の出場を兼ねること。

5. 鍊成内容

基本鍊成後、学年別試合鍊成(各学年別個人戦)

6. 表彰

(1) 優秀者に賞状、賞品を贈る。

(2) 参加者全員に参加賞を贈る。

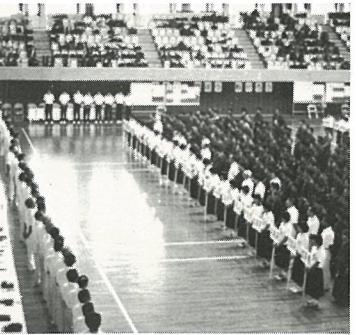
7. 参加料

1人200円

8. 申込期日

昭和58年3月5日(土)

9. (申込みと同時に納入すること)



*以上の大會は、全日本剣道連盟試合並びに審判規則による。

形審査会要項

1. 審査会実施日

S57年度事業計画により実施

2. 申込資格

(1) 本連盟会員で終身会費納入済者

(2) 実技審査は、形合格証持参者で次の条件に適うもの

段位	修業年限	年令・その他
初段	1級受有後	1級受有者
2段	2段受有後	2段以上
3段	3ヶ月以上	高校3年以上
4段	1年以上	高校生以上
5段	3年以上	

3. 申込方法

別添の申込用紙に必要事項記入の上、審査料(実技は形合格証)を添えて所属地区連盟に申込むと。

4. 審査料及び登録料

各地区剣道連盟または、県剣道連盟にお問い合わせ下さい。

段位	初段	太刀1~5本	形
5段	太刀1~7本	"	イシカゲ技(数回)
4段	太刀1~7本	地稽古	イシカゲ技(相互)
3段	"	2~3回	口地稽古(相互通じ)
2段	"	2~3回	口地稽古(相互)
初段	太刀1~3本	地稽古	イシカゲ技(数回)

5. 審査方法

(1) 形審査、実技審査、合を記せ

※ 形講習は、各地区行事日程により行う。
審査申込時及び審査当日は必ず会員証を持参すること。

級審査について

級位の審査は、各地区連盟で、春・夏・秋の三回実施されており、春・夏・秋共、各市町村別で実施しておりますので実施延回数は非常に多くなっております。
日時・会場等については、各地区連盟にお問い合わせ下さい。

愛知県剣道連盟 事務所移転のお知らせ

5月1日より左記のとおり事務所を移転しました。

〒四五三
名古屋市中村区鳥居通り二一四一
内藤ビル 二階
電話 ○52-1481-1009
交通 地下鉄本陣駅下車
四番出口徒歩1分

ありし日の土川元夫範士
(S.48 於 名鉄体育館)



県連二十周年記念事業

主催 愛知県剣道連盟

次 第

五、功労者の表彰

一、被表彰者及び役員選手入場

二、開会のことば

三、主催者あいさつ

四、物故者法要

献花

六、記念大会

日本剣道形
居合道演武

剣道試合

七、懇親会

八、閉会のことば

物故者名簿

(連盟結成以来の教士七段以上及び
役員としての功労者)

(敬称略、順不同)

ご冥福をお祈りいたします。

安田政次郎	藤原律藏	鹿嶋清孝	杉山兼一	足立純三	加藤七左衛門	土川元夫	宮田一雄	長谷稜造	道野鶴松	安藤兵一	坂本一心	磯部正俊	井口時次	石川佐一	石黒利平	今泉清市	岡本利一
						野々村策一				伊藤鎌作					岡部永		
															加藤治祐		
																近藤甚三	
															川島清五郎		
															龜井良舟		
															寺田太		
															中村安之		
															内藤昇		
															名倉武雄		
															中根親純		
															寺田太		

感謝狀贈呈

本連盟の発展に物心両面に
わたり御支援賜つた各位

役員表彰

名古屋鉄道株式会社
中日新聞社
株式会社名鉄百貨店
株式会社名鉄ストアード
株式会社東海銀行
株式会社松坂屋
東邦瓦斯株式会社
名古屋トヨペツ株式会社
大同特殊鋼株式会社
中部電力株式会社
東海倉庫株式会社
株式会社ワタモリ

特に功労のあつた者

(順不同)

功勞賞

本連盟を代表して全国大会等で優勝した者及び国際大会出場者

順不回

坂部末太郎
杉田義勇
市川三男

鈴木守治	第一回全日本選手権大会 第7回国民体育大会 第1回世界剣道大会 第3回東西対抗剣道大会
近藤利雄	第7回国民体育大会 第16回国民体育大会
佐藤善記	第7回国民体育大会
内田実	第13回都道府県対抗剣道大会 第6回全日本選手権大会

谷 築 吉 郎

内藤利男

第13回都道府県対抗剣道大会

第11回全国教職員大会個人 田 涉

とき 昭和五十七年六月二十七日
名鉄体 育館
主催 愛知県剣道連盟

劍道大會

連盟結成三十周年記念



大会役員

(順不同)

大会会長

竹田弘太郎

大会副会長

森田次男

大会顧問

杉森藤小山近太森
山田井川田藤田秋
孝信正満廣元行

大会委員長

横山定雄
加藤文雄
鈴吉郎

大会副委員長

横山定雄
加藤文雄
鈴吉郎

大会委員

鈴阿水加谷
木部野藤
健久信
一治登雄

中内寺渡富田鈴坂坂小小熊国北川上大伊伊市
村藤沢並田中村木部田島山谷松村口北島藤藤川
正将孝弥万守末平九宗文錦鞆一弘嘉
薰之助美直夫市龟治太郎七郎一章利巖豊哉也登彦之一

古和山山森三輪水前牧船松細二福深久日濱浜林原
田田本本本野田野橋田田村田田置地田
和伊芳重要之武八治正和鍊忠俊正治富士由
正功郎夫助生薰郎雄登一夫郎男雄夫郎一作夫一

岡小笠伊伊市市青内柳翁安池横匹小谷榊加近浅
野原東藤藤川川山藤田長藤内山田川原藤藤野
克和守弘敏秋嘉定利左良兼秀定勝正鑑萬利八
春雄信之男光一男男内明一夫雄夫亮正一雄郎

山宮水水牧前本二福深平日原浜中中田鷹鈴鈴坂小加
本林野谷野田多村田田野置田村野中野木木田藤
重伯八德治二忠俊正洋富由修芳忠萬亀種健平信
夫次郎正登雄郎男雄夫一雄一作薰男弘雄夫次一郎肇雄

組合せ

日本剣道形

打太刀範士八段
仕太刀範士八段
小川正亮
加藤万寿一

居合道の部

鍊士六段

3 内藤岡良高
1 鹿嶋清治
2 小林博

教士六段

3 田勝森夫治
1 秋田勝治
2 伊藤宗太郎

教士七段

3 森田治
1 清治
2 納博

剣道の部

鍊士六段

17 鈴上松大祝東梅辻矢内白木竹北井龜渡堀
木北下崎要一修康俊信孝厚滋由人健
大鞆明也房保司良一博治臣一仁雄敏枚司香治

15 13 11 9 7 5 3 1
鈴上松大祝東梅辻矢内白木竹北井龜渡堀
木北下崎要一修康俊信孝厚滋由人健
大鞆明也房保司良一博治臣一仁雄敏枚司香治

18 16 14 12 10 8 6 4 2
近置荒北鈴波竹光阪牧山日大畠平仲伊佐
藤田木村村多野下永口野口比木中松島集院藤
重證文明文金利俊昌貞金公直政俊健
助明們弘男吉勉雄雄宏勝次夫之基藏

範士八段	1	翁 内	教士八段	35	33	31	29	27
加 小				鷹 市	小 笠 鈴	小 鈴	前 中	浜 水
藤 川		長 藤		野 川	原 木	栗 木	田 村	田 野
万 寿 一	正	良 利		忠 嘉	和 健	呂 種	治	修 八
	亮	明 男		雄 一	雄 一	一 次	雄 薫	作 郎

36	34	32	30	28
山 永	中 伊	岡 二	伊 山	加 伊
内 田	野 藤	野 村	藤 口	藤 東
克 兼	芳 弘	克 忠	敏 和	文 守
彦 一	男 之	春 男	男 助	雄 信

6	4	2		10	8	6	4	2
林 大	伊 稲	水 岡		加 内	鹿 米	置 石	水 井	安 崎
獄 藤 垣 田 元				古 田	嶋 田	田 井	谷 上	部 下
邦 将 克 德 昭 伝					清 種	修 輝	洋	秀 匡
夫 文 己 三 三 吉				敏 實	治 司	三 夫	幸 正	利 弘

MEMO

25	23	21	19	17	15	13	11	9	7
鈴 松	松 山	田 太	寺 深	本 原	石 村	勝 川	北 細	伊 久	柳 神
村 本	田 本	中 田	沢 川	多 川	瀬 股	口 口	村 田	藤 保	生 田
万 龜 夫	太 和 重	吉 将 辰	美 爨 郎	麿 一 郎	富 二 郎	守 男	壽 彦 哉	豊 彦 郎	泰 充 邦 一 男

26	24	22	20	18	16	14	12	10	8
加 深	日 牧	福 宮	坂 宮	水 市	石 平	渡 岩	近 山	長 谷 川	高 原
藤 田	置 野	田 林	田 崎	谷 川	原 野	辺 田	藤 本	原 本	河 松
信 正	富 士 雄	俊 伯	平 七 郎	袈 裳 雄	德 秋	重 三 郎	洋 一	豊 三	勁 助
雄 夫	登 雄 次			正 光		一 男	充 圏	錄 郎	源 一

「観の眼」第五号の発刊が大変遅れることを深くお詫びいたします。

今回も連盟の主たる行催事の要領と参加申し込み書を一括掲載し事務の簡素化と郵便料金の節約につとめておりますのでご協力下さい。

特に、五月一日から事務所が移転になつておりますので申し込み手続き等は20頁をご確認の上手続きに遗漏のなようご注意下さい。

今回は、広報委員会坂田委員長のお骨折りで連盟結成当時の先輩のお話しままとめていただきました。次回は、結成後の苦労話、各種全国大会優勝秘話など掲載できると存じます。

どうぞ会員の皆さんもご寄稿下さるようお待ちいたしております。

事務局長
細田 鍾郎

編集後記

広報「観の眼」第五号

昭和五十七年六月二十七日

愛知県剣道連盟

〒453

名古屋市中村区鳥居通り
内藤ビル二階
一ノ四〇

電話
（〇五二）四八一一〇〇九三